

『地域での支え合いの関係について考える—福祉の視点から—』

同志社大学
小山 隆

I 地域での支え合いのいくつかのタイプ

- 超歴史的なタイプ
ある意味で義務的なもの
- 制度的・専門的なタイプ
福祉が国や社会の義務になって発生してきたもの
- 自発的なタイプ
「当然とされる関係」でもなく「保証された関係でもなく」
する側の「自発性」が重要なキーポイントになる「関係」

II ボランティアという言葉

ボランティアという言葉から、何を印象するか？

「良いこと」「自分にはできないこと」「困っている人をお世話する」「やりがいがある」等々

「世話をする人」と「お世話になる人」という関係は本当か???

困っている人のための「福祉」や「ボランティア」か？

III 福祉の考え方

福祉は誰のために誰がするものなのか？

「困っている人」の「ため」か？
しかし、このことはもう一度考える価値がある。

1. 誰が、援助関係における「主体」か？

援助主体と援助対象の関係から

しかし、現実には「遠慮」が発生することに注意する必要がある。

2. 社会的存在にこだわる

社会福祉であり、ソーシャルワークであるには理由がある。

心理的存在／医学的存在／法的存在．．．
社会的存在としての人と関わるのが社会福祉

3. 「最大多数の最大幸福」について

この言葉をどう感じるか？ 一人でも多くの人の幸せを実現しようとするのだから
大変に福祉的な発想．．．か？

その問題点を考える必要がある。

障害者の「為」のトイレ一つで幾つもの我々の「為」のトイレが作れるか？

IV ボランティア体験を通して

1. 個人的体験から 高一の時

- きっかけ
- 最初の喜び
- ショック
- 感動

2. 阪神淡路大震災の体験から

- あせり
- とまどい
- ふみこみ
 - 先ず踏み込んだ者は.....
- 広がり
- ショックだった出来事

3. ボランティアの意味

- 自分にとって
- 社会にとって
- 関係をもちつづける／つながりつづける社会のために

V ボランティアとは

1. ボランティアの条件

2. ボランティアの意味・役割

補完性 先駆性 市民性 改革性

3. いくつかの課題

以上